



輝け 未来へ 中番校

No one will be left behind



1. 17 阪神淡路大震災から 28 年

— Change (変革), Challenge (挑戦), Continue (継続) —

今日は、二十四節気という「大寒（だいかん）」です。極寒に見舞われる時期ということ、しかし、そのような中でも春の兆しありといったところでしょうか。

さて、先日（1月17日）、地震の避難訓練を実施しました。今回は、休み時間に地震が発生したという想定でした。今までは授業中の想定であり、基本、子供達の周りには教師がいるという状況での訓練でした。子供達はどのように行動するのか、楽しみでもあり、少々不安でもありました。行間休みに実施をしました。運動場で遊んでいる子供、教室で休んでいる子、トイレに入っていた子供もいたかもしれません。地震の音を流し、発生を知らせました。子供達は、まず、机の下に潜ります。このことは本当に子供達には身に付いています。以前、緊急地震速報が流れた時、子供達は反射的にその行動をとっています。訓練の経験の大切さを実感した瞬間でした。話を戻しましょう。運動の子供達は、運動場の中央に集まっていた。教室の子供達は、机の下に潜っていました。地震が収まり、避難指示の放送で避難となります。今回は西階段が崩れ、使用できない状況を想定し、東階段から昇降口への避難経路を設定しました。階段、廊下にはコーンやバー等、若干の障害物を出し、危険物を想定しました。集合場所は芝生広場としました。子供達は頭を守りながら避難してきました。地震の災害はいつ起こるか分からない。その時、**自分がどうするかは自分で決めなければならない。身の安全、命を守る為にどうすることが最善かを考える必要があるのです。**その為には、情報を的確に把握することが重要であること、そして、具体的に考え判断していくことが重要です。どこが通れな

い、地震では多くのものが崩れている、ということは、上から何が落ちてくるか分からない、上だけ見えていても危険、下には壊れたものが散乱している、ガラスの破片がそこら中に散らばっている、とにかく身を守るために注意し、考えなくてはならないことがいっぱいあるのです。あの阪神淡路大震災の時、そのような状況におかれたのです。この小野市もかなり揺れました。早朝、大きな地震が起こった？我が家の食器棚も開き、食器が割れていました。学校に行くと教室のテレビが棚から落ちていました。テレビで放送される被災の状況が明らかになるにつれ、その被害の大きさに驚きと不安と心配が募っていきました。私の学級にも被災し、この小野市に戻って来た子供が転校してきました。給食センターはおにぎりを作って救援に向かわれていました。多くの人々がこの震災の為に動き、影響を受けていました。あれから28年が過ぎました。**保護者の皆様にとっては「もう28年」「まだ28年」どちらでしょうか。**これは一人一人違うと思います。一度、じっくりと考えることが大切ではないかと思います。

天気予報では、今週末から来週いっぱい10年に一度あるかないかの寒波の襲来との予報が出ています。子供達には①体調を崩さないよう安全に生活すること（規則正しい生活等）②防寒の準備（手袋、上着等）③登下校の安全確保（路面の凍結等）について伝えています。災害は、身近にあり、いつ起こるか分かりません。常日頃から、心と体、必要な物の備えを忘れず、**不断の備えを心がけることが重要なことです。**今回の避難訓練を通して考えたことを生かし、日々の防災について自分で考え、対応できる力を身に付けて欲しいと願っています。

保護者の皆様のご理解とあたたかく力強い支援と配慮を賜いますようよろしくお願い申し上げます。**3学期、元気で逞しい子供達の姿を期待しております。**中番小学校は、子供達、保護者の皆様、地域の皆様と共に歩んでいきます。